

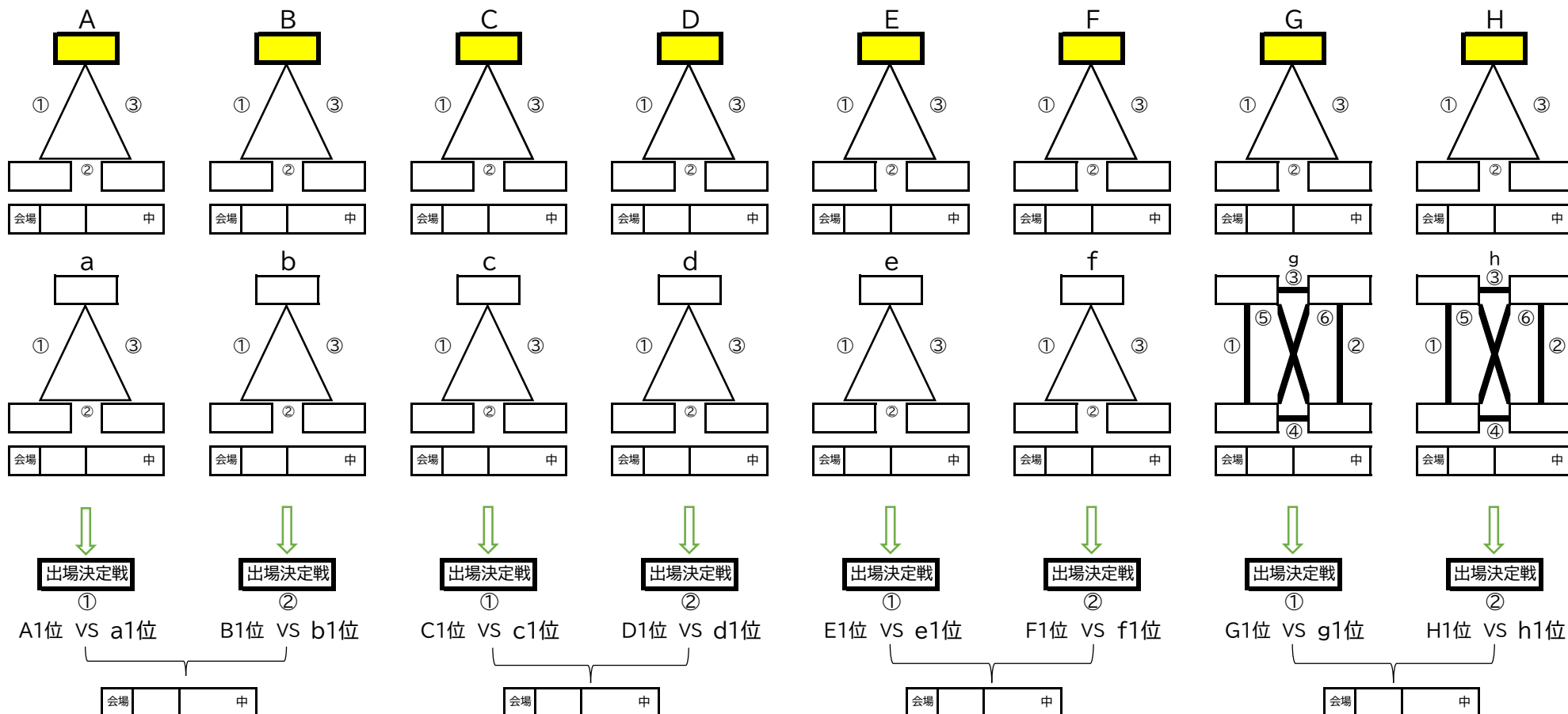
令和7年度 第58回近畿中学生バレーボール選抜優勝大会京都府予選会(京都市女子決定戦) 例です(出場校数により変動あり)

*新人大会のベスト16をシードとする。(A～Hに入れる。) A～Hおよびa～hの1位が予選通過。その後、上下の1位同士で出場決定戦を行う。

予選審判 3校例

*空きチームですべて補う。ラインズマン4名・得点2名・IF2名。主審・副審は、顧問の先生で基本行う。複数顧問でない場合は、副審については、生徒で補う。

*各試合終了後、15分間の合同練習ののちにプロトコールを行い、ゲームを始める。



出場決定戦審判

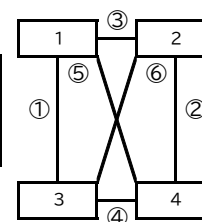
	主審・副審	ラインズマン4名・得点2名・IF2名
①	第2試合の両顧問	第2試合の両チーム(各4名)
②	第1試合の両顧問	第1試合の両チーム(各4名)

*第1試合終了後、15分間の合同練習を設け、その後プロトコールに入る。

*審判例は、あくまでも例です。他に効率的な方法があればそれでやってください。

*試合球は七条中学校まで返却お願いします。

予選4校審判例



日	試	試合	審判・補助役
1日目	①	1・3	2・4
	②	2・4	1・3
	③	1・2	3・4
2日目	④	3・4	1・2
	⑤	1・4	2・3
	⑥	2・3	1・4